

Hello, from
Around the World

ALT通信

白河で活躍するALT（外国語指導助手）を紹介！



デワイルド・サシャ先生
(オーストラリア 南オーストラリア州)
☎本庁舎学校教育課 内2365

スマイルイングリッシュ！

みなさんこんにちは。前回に引き続きサシャです。

私は南中・五箇中・白四小・五箇小で英語クラスを担当しています。白河の子どもたちは笑顔で元気な挨拶をしてくれるので、私も毎日スマイルで過ごしています。

授業では、クイズ、リスニングゲーム、手作りイングリッシュかるた、英語とバスケットボールを組み合わせたゲームなどを取り入れて、楽しく英語が学べるように工夫しています。

また、子どもたちと一緒に給食を食べたり、掃除をしたり、学校生活を楽しんでいます。

英語を勉強する上で大事なことは、間違っても気にしないで挑戦

し続けることです。それが英語上達への近道だと思います。

学校の外でも、気軽に英語を使ってくれたら嬉しいです。スマイルでたくさん話しましょう！



▲五箇小での授業の様子

英語で一言！

Have as much fun as possible!

(できるだけ楽しみましょう！)

シリーズで学ぶ 白河歴史人物伝

江戸初期の大名文化人の一人

さかきばら
榊原(松平)忠次
(1605～1665)



榊原忠次像(部分)
(上越市榊原神社蔵、
(公財)旧高田藩和親会管理)

Vol.14

《誕生と榊原家の相続》

榊原忠次は、慶長10年(1605)、大須賀忠政の子として生まれました。祖父は「徳川四天王」の一人、榊原康政です。

父は母方の大須賀家(徳川家の重臣)を継ぎ、忠次もその跡を継ぎました。

しかし、榊原家の当主が若くして亡くなり、徳川家康の命で忠次が榊原家を継ぎました。なお、忠次が「松平」を称するのは、大須賀家のゆかりによるものです。

《白河藩主としての業績》

忠次は11歳で榊原家を継ぎ、39歳で館林(群馬県館林市)から白河に転封しました。

白河での治世は、わずか6年間でしたが、領内に15か条

の触書を出して藩の基本姿勢を示したほか、鹿嶋神社に自筆の祝詞(中臣祓)を奉納しています。また現在の榊原神社(須賀川市)本殿は忠次が再建したものです。

《文化人としての忠次》

その後忠次は姫路(兵庫県姫路市)藩主となり、61歳で亡くなりますが、文化人としても著名でした。学問を好み、和歌集をまとめ蹴鞠も名手であり、徳川家の創業史「御当家人年録」も編さんしました。忠次は公開を憚って秘本としましたが、約120年後に幕府に献上されました。

なお、榊原家は寛保元年(1741)、越後高田(新潟県上越市)に転封して白河周辺にも領地を与えられ、再び白河との縁が生まれています。



榊原忠次自筆中臣祓(部分)
(鹿嶋神社蔵、白河市
歴史民俗資料館寄託)

文化財課 ☎2310